

有明新報

THE ARIAKE SHIMPO

大牟田
荒尾版

平成29年(2017年)
2月23日
木曜日

新技術で管内洗浄

九州初のアイスピグ工法

流量は大幅に改善

大牟田



九州初の工法で行われた放流管の洗浄

大牟田市汐屋町の共栄環
境開発株式会社は19日まで市東

部環境センターから七浦橋
まで総延長1・5キロの処理

水放流管(直径100センチ)
を九州で初めてとなる「ア

イスピグ工法」で洗浄し、
流量は大幅に改善。多くの

関係者が作業の様子を見守り、環境に非常に優しいといわれる新たな工法に高い関心を寄せていた。

この区間の放流管の洗浄が行われたのは3年前。

この時は球状のスポンジを管内に通して汚れを除去するという洗浄するピグ工法で行われたが、今回は管内を特殊アイスシャーベットという力で洗浄するアイスピグという新しい工法で実施。

アイスピグ工法に使うアイスシャーベットは水と塩を混ぜて作ったもの。管

内に付着したさびや汚れをシャーベット内に包み込んで取り除き、管外へ排出する。球状や砲弾状のスポンジなどを使うピグ工法と違い、アイスシャーベットであることから配管が曲がっていても詰まるリスクが少なく、薬品を用いていないため、人体にも無害で環境にも優しいということも大きな特徴という。

今回洗浄が行われたのは総延長1・5キロで高低差35メートルのエリア。市が発注して共栄環境が請け負い、安全性が高いという理由でアイ

スピグ工法が選ばれた。作業は3日間行い、製氷車でアイスピグを作ってデリバリーユニットでこれを搬送。管内にアイスピグを注入して洗浄作業を行った。

1日目の15日はプレ洗浄。2日目の18日は市東部環境センターから大牟田高圧ガスセンター付近までの750メートルの区間、3日目の19日はガスセンター付近から七浦橋までの750メートルの区間を洗浄。いずれも約4・4メートルのアイスピグが使用された。アイスピグが注入された後は管内の水温が下降。しばらくすると、真っ黒な汚れが付着したアイスシャーベットが確認された。

1時間当たりの流量は清掃前が20・5立方メートルだったが、清掃後は31立方メートルへ大幅に改善。市東部環境センターでは「流量から見ても、汚れ等ははかり落ちて、効果は確実にあった」と話していた。

（小柳 聡）